

図画工作科学習指導案

題材名「レインボーランドの仲間たち」

令和5年9月

指導者（T1） 瀧澤 千明

（T2）〇〇 〇〇（T3～T10） 各教室の担当教員

I 題材の構想

1 題材観

本学級に在籍する児童は、病棟に入院し、病気や怪我の治療を行いながら学習に取り組んでいるため、学習場所や衛生環境の関係で取り扱える教材や実施できる活動に制限が多い。そのことにより、通常の小学校に比べて、学習や学校生活の面での経験が不足しやすい。例えば、図画工作科においては教材として粘土や自然物などの材料を取り扱うことが難しく、それらに触れる経験が不足している。実際の場所に行く機会が少なく、それらを題材にした作品づくりを行う際に、経験に基づいてイメージを広げていくことが難しいことがある。また、児童は治療内容や体調によって授業への参加が難しかったり、入院期間によって創り出す喜びを味わうことができる段階まで活動に取り組みなかつたりすることがある。そこで、児童が粘土などの材料やいろいろな道具に存分にに関わり、創り出す喜びを味わえるようにしたいと考えた。

また、本学級の児童は、治療中は病室での個別授業となることがあるため、通常の学級と比べて他児童との対話や学び合いの機会、その対象が少ない状況がある。図画工作科において対話的な活動には、他児童の表現の仕方を参考にして自分の表現に生かしたり、対話を通して造形活動のヒントを得たりすることができる効果が期待される。そこで、児童が他児童や教師との対話的な活動の中で、自らの表現のイメージを広げられるようにしたいと考えた。

本題材は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年「A表現」(1)イの内容を取り扱う。本題材では、虹の上に広がる「レインボーランド」、そこに集まる「自分らしい生き物」を表現することをテーマとする。こんな生き物がいたら面白い、気になる、仲間になりたいなどの視点から、生き物を空想して表現する。または、自分に似ている、自分の雰囲気と重なる、自分にとってかっこいい、かわいいなどの視点から、実在する生き物を自分なりの解釈で表現する。このような活動を通して、児童はイメージを広げたり、造形活動への意欲を高めたりすることができると思う。

本題材では、粘土を材料とした造形活動を中心に行う。可塑性が高い軽量紙粘土を使用することで、児童が直接素材に触れ、何度も形を創り変えながら材料に関わることができると思う。その過程を通して、イメージを広げながら創りたいものに近づけ、創り出す喜びを味わうことが期待できる。

また、児童が互いの活動の様子を見合ったり、伝え合ったりすることでイメージを広げ、表現に生かすことができるだろう。

題材の後半には、三原色を元にした混色技法を使って、画用紙に七色の虹を彩色する活動を行う。各児童が「レインボーランド」の一部を制作し、他児童の作品と組み合わせて一つの大きな「レインボーランド」となるようにする。その「レインボーランド」の上に「自分らしい生き物」を自分の好きな位置に置くようにすることで、一人一人が机上で創ったものが、「レインボーランドの仲間」として友達の作品とつながり、ユニークでバラエティに富んだ仲間たちが集まる、楽しい空間を創り出すことができた喜びを感じることができるだろう。

2 研究との関わり

本研究では、「自分のイメージを広げながら、創り出す喜びを味わう児童の育成」をねらいとし、そのための手立てとして、材料や道具に存分に関われる学習環境づくり、児童同士が関わり合える学習環境づくりの二つを設定している。

一つ目の手立て、材料や道具に存分に関われる学習環境づくりとは、安全且つ魅力的な材料を設定するこ

と、すぐに手に取ることができる位置に材料や道具を配置することである。児童の病状などの実態を考慮した上で安全に使うことができ、児童の「触ってみたい」「使ってみよう」という意欲を高められるような材料として本単元では軽量紙粘土を使用する。さらに、様々な形の空き容器やストロー、綿棒等から芯材を選べるようにする。また、材料や道具は、使いたい物を使いたい時に移動することなくすぐ手に取れるよう、児童と児童の間に配置する。このような学習環境づくりを行うことで、児童は材料や道具からイメージを広げたり、イメージをすぐに形にしたりすることができるだろう。

二つ目の手立て、児童同士が関わり合える学習環境づくりとは、児童が互いの活動の様子を見合ったり、伝え合ったりできるよう座席を配置することである。本単元では、環状に、向かい合わせて座席を配置する。また、普段どおりの声量で自然に会話できるように座席間の距離を近くする。病室にいる児童も、教室とオンラインでつなぎ、互いの様子を見合ったり伝え合ったりする。このような環境づくりを行うことで、児童は互いの創っているものや表現の仕方、使用している道具などを見合ったり、互いの作品について印象を伝え合ったりしながら、イメージを広げることができるだろう。

3 題材の目標及び児童の実態

(1) 題材の目標

- ・経験した方法や新しく知った方法を試しながら創ることができる。(知識・技能)
- ・材料に何度も触れて試す、互いの造形活動の様子を見合ったり、伝え合ったりすることでイメージを広げることができる。(思考・判断・表現)
- ・自分のイメージに近付けるように、材料に手を加え続けることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 児童の実態

	A (6年)	B (6年)	C (5年)	D (5年)
知識及び技能	粘土を材料に、手びねりをしたり、粘土ペラを使ったりして、細かな表現をすることができる。	粘土を材料に、手びねりをしたり、道具を効果的に使ったりして、細かな表現をすることができる。	他児童の活動の様子を見ながら、自分のイメージに合う方法や道具を選択し、丁寧に表現することができる。	粘土を材料に、手びねりをしたり、道具を使ったりして、表現することができる。
力、思考力、表現力等	参考作品に捉われず、自由にイメージしたり、イメージしたことをどのように表現するか考えたりすることができる。	創りたいもののイメージを具体的にもち、材料や道具、表現方法を考えることができる。	自分好みの参考作品を観てイメージをもち、それに合う表現方法を考えることができる。	創りたいもののイメージをもち、材料や道具を考えることができる。
力、学びに向かう	自分のイメージに近付けるために、積極的に材料や道具、方法を試しながら、造形活動に取り組むことができる。	自分のイメージしたことを、作品を通して伝えたいという願いをもち、造形活動に意欲的に取り組むことができる。	材料や道具に触れることを楽しみながら、造形活動に取り組むことができる。	材料や道具に触れることを楽しみながら、意欲的に造形活動に取り組むことができる。

4 評価規準

知識・技能	経験した方法や新しく知った方法を試しながら創っている。
思考・判断・表現	材料に何度も触れて試す、互いの造形活動の様子を見合ったり伝え合ったりすることでイメージを広げている。
主体的に学習に取り組む態度	自分のイメージに近付けるように、材料に手を加え続けている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全6時間：本時第2時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	主	◆評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価 ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
出会う	1	<p>■創りたい生き物のイメージをもつことができる。</p> <p>□「レインボーランド」「自分らしい生き物」を創ることを知り、創りたい生き物を考える。</p> <p>□参考になる画像やイラストを検索して印刷したり、デザイン画を描いたりする。</p>		○		<p>◆創りたい生き物のイメージをもち、その参考になる画像やイラストを選択したり、デザイン画を描いたりしている。<イラスト、デザイン画（思）></p>
<p>[題材の学習課題・問い等] こんな生き物がいたら面白い、この生き物のこんなところがかわいいなど、イメージを広げながら自分らしい生き物を創ろう。</p>						
つくる	2 （本時） ・ 3	<p>■材料や道具、他児童との関わりを通してイメージを広げ、造形活動に主体的に取り組むことができる。</p> <p>□共同作品を創る仲間、互いの創りたい生き物のイメージを知る。</p> <p>□創りたい生き物のイメージの、形や大きさに合わせて芯材を選ぶ。</p> <p>□粘土と芯材を使って、「自分らしい生き物」を創る。</p>	●	●	●	<p>◆イメージに合わせて材料や道具、方法を使い分けながら創っている。<観察、作品（知）></p> <p>◆材料や道具、他児童との関わりを通してイメージを広げている。<観察（思）>〔記〕</p> <p>◆粘土を何度も変形させながら、イメージに近づけようとしている。<観察（学）></p>
<p>[本時のめあて・課題・見通し等] のぼして、丸めて、切って、くっつけて、自分らしい生き物を創ろう。</p>						
	4	<p>■他児童との関わりを通してイメージを広げ、色使いを工夫して彩色することができる。</p> <p>□「自分らしい生き物」のイメージに合う色を考え、紙粘土に水彩絵の具で彩色する。</p>	●	●		<p>◆イメージに合うよう色を組み合わせたり、混色したりしながら彩色している。<観察、作品（知）></p> <p>◆互いの活動の様子を見合ったり、色使いについて伝え合ったりしながらイメージを広げている。<観察（思）>〔記〕</p>
	5	<p>■虹の7色を混色技法で創り、「レインボーランド」の土台に彩色することができる。</p> <p>□虹の道の入り口と出口の点印が描かれた紙を利用して、鉛筆で点をつないで好きなカーブやラインで下描きをする。</p> <p>□虹の7色を、3原色を混色して創る。</p> <p>□下描きに、好きなタッチで着色する。</p> <p>□タブレットで自分の創った土台を撮影し、ジャムボード上で他児童の創った土台と組み合わせる。互いの「自分らしい生き物」を見合ったり、相談したりしながら、自分の生き物を置く位置を決める。</p>	●	○		<p>◆虹の7色を、3原色を混色して創り、「レインボーランド」の土台に彩色している。<観察、作品（知）></p> <p>◆共同作品としてのバランスを考えながら、自分の作品を置く位置を決めている。<観察（思）>〔記〕</p>
振り返る	6	<p>■自他の作品のよいところについて感想を伝えることができる。</p> <p>□完成した「レインボーランド」の画像やハートフルアート展のWebページを見て、互いの作品のよいところを見付ける。</p> <p>□感想を伝え合う。</p>		●		<p>◆自他の作品のよいところを、具体的に示しながら感想を伝えている。<観察（思）></p>

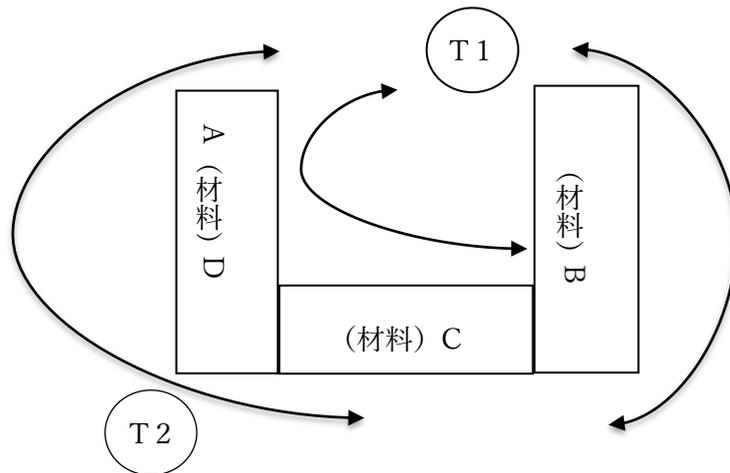
II 第2時の学習

1 ねらい 材料や道具、他児童との関わりを通してイメージを広げることができる。

2 展開

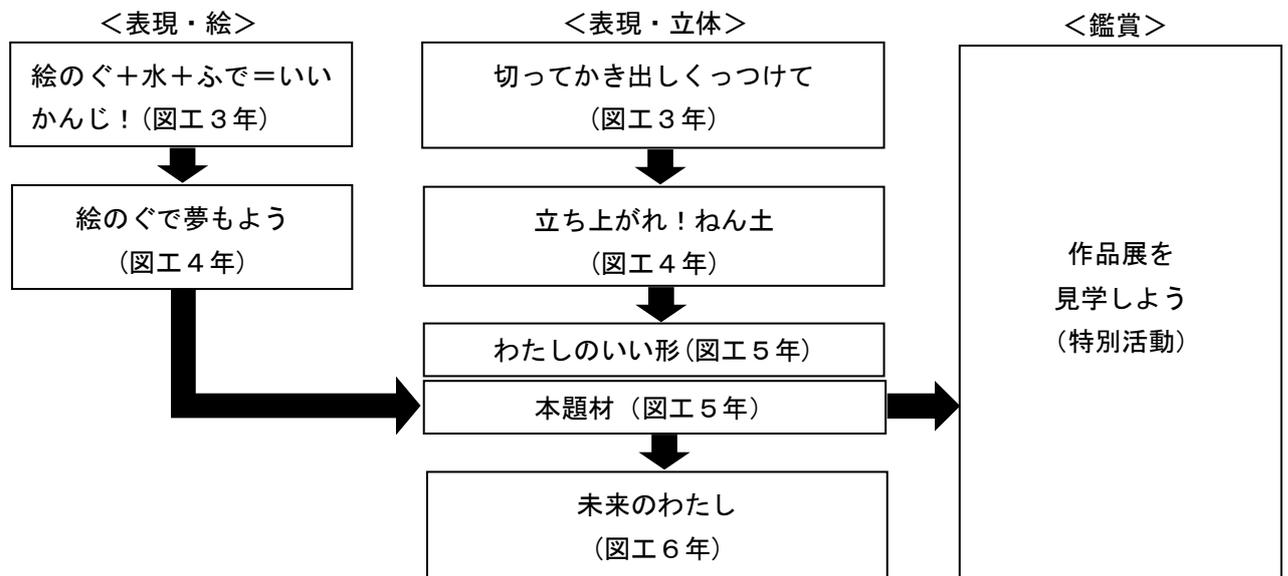
主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 共同作品を創る仲間、互いの創りたい生き物のイメージを知る。 (導入5分) S:「〇〇さんの創りたい生き物は面白いな。」 S:「私も、ああいうイメージで生き物を表現したいな。」 S:「(参考作品を見て)これはどういうふうに創ったのだろう。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <めあて・課題・見通し等> のばして、丸めて、切って、くっつけて、自分らしい生き物を創ろう。 </div>	◎違う教室や分校にいる児童生徒とも互いの創りたい生き物のイメージを紹介し合えるように、オンラインでつなぐ。 ○互いの創りたい生き物のイメージが視覚的に伝わるように、第1時で調べた参考画像や、描いたアイデアスケッチを見せながら紹介する。 ○イメージに合った表現を考えられるように、こだわりたい部分はどこか、それを表現するためにどんな材料や道具をどのように使うか、考えながら創るよう伝える。
2 参考画像やアイデアスケッチを見ながら、選択した空き容器と新聞紙やアルミホイルを使って芯材を創る。 (展開①10分) S:「胴体の形はどんな形かな。」 S:「頭としっぽはどこにつけるのがいいのだろう。」 S:「新聞紙はぎゅっと丸めると固くなって粘土を付けやすそう。」 S:「大きさはどのくらいにしたらいかな。」 S:「〇〇さんのはどんな生き物だっけ?面白い形だな。」	◎自分の作りたいサイズに合わせて選べるように、新聞紙やアルミホイルをいくつかの大きさに分けて切っておく。 ◎使いたい物を使いたい時にすぐ手に取れるように粘土と綿棒などの材料、粘土ベラ、のべ棒などの道具は、児童と児童の間に配置する。 ○粘土を芯材に付きやすくするために、新聞紙やアルミホイルはきつく丸めたり、巻いたりするよう伝える。
3 芯材と軽量紙粘土を材料に「自分らしい生き物」を創る。 (展開②25分) S:「このペットボトルの形、面白いな。この形を生かして瓢箪みたいな胴体の生き物にしてみよう。」 S:「〇〇さんの生き物の角、すごく長いよね。どうやって創ったの。」 S:「ストローを中に入れたよ。」 S:「なるほど、私も何か長細い芯材を入れてみよう。」 S:「〇〇さん、毛並みを表現するのに、粘土ベラの先端を使って粘土を引っ掻いている。まねしてみようかな。」 S:「いや私の生き物には粘土を貼り付ける方が合っているかも。のべ棒を使って粘土を薄く平たく伸ばしてから、細く切り分けて貼ろう。」	◎互いの活動の様子を見合ったり、伝え合ったりすることで、イメージを広げることができるよう、児童の机を環状に向かい合わせて配置する。また、オンラインでつないだ児童とも互いの様子を随時伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ◆評価項目 材料や道具を何度も試したり、互いの活動の様子を見合ったり、伝え合ったりしてイメージを広げている。<観察(思)> </div>
4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 (終末5分) S:「〇〇さんの生き物、見たこともない姿で面白いね。」 S:「イメージどおり、かっこよく仕上がって嬉しいな。」 S:「今度は、空想の生き物を創りたいな。」	○児童の作品をモニターに大きく映して提示しながら、児童の表現の工夫を、具体的に紹介しながら称賛する。

3 配置図



Ⅲ 備考

1 他教科等との関連



2 参考文献、著作権関係等

日本文教出版図画工作5・6下、教師用指導書、材料・用具編、
 学校学習指導要領解説(図画工作編)、はばたく群馬の指導プランⅡ